

大 雪 山

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

○火山活動評価

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況（2021年7月～2022年6月）

2021年7月以降の発表履歴	現在の警報・予報（噴火警戒レベル、キーワード）
変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）

○2021年7月～2022年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①～③、図3～8）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2021年7月26日から28日にかけて実施した現地調査及び8月20日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気活動や地熱域の状況に特段の変化はみられませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図2-④～⑥、図9）

2021年7月4日に振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しました。震源は地獄谷爆裂火口付近浅部と推定されます。それ以外の期間の地震回数は少なく、地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図10）

2021年7月26日から28日に実施したGNSS繰り返し観測では、前回（2019年8月）と比べて特段の変化は認められませんでした。



図1 大雪山 西側から見た地獄谷爆裂火口の状況（忠別湖東監視カメラによる）

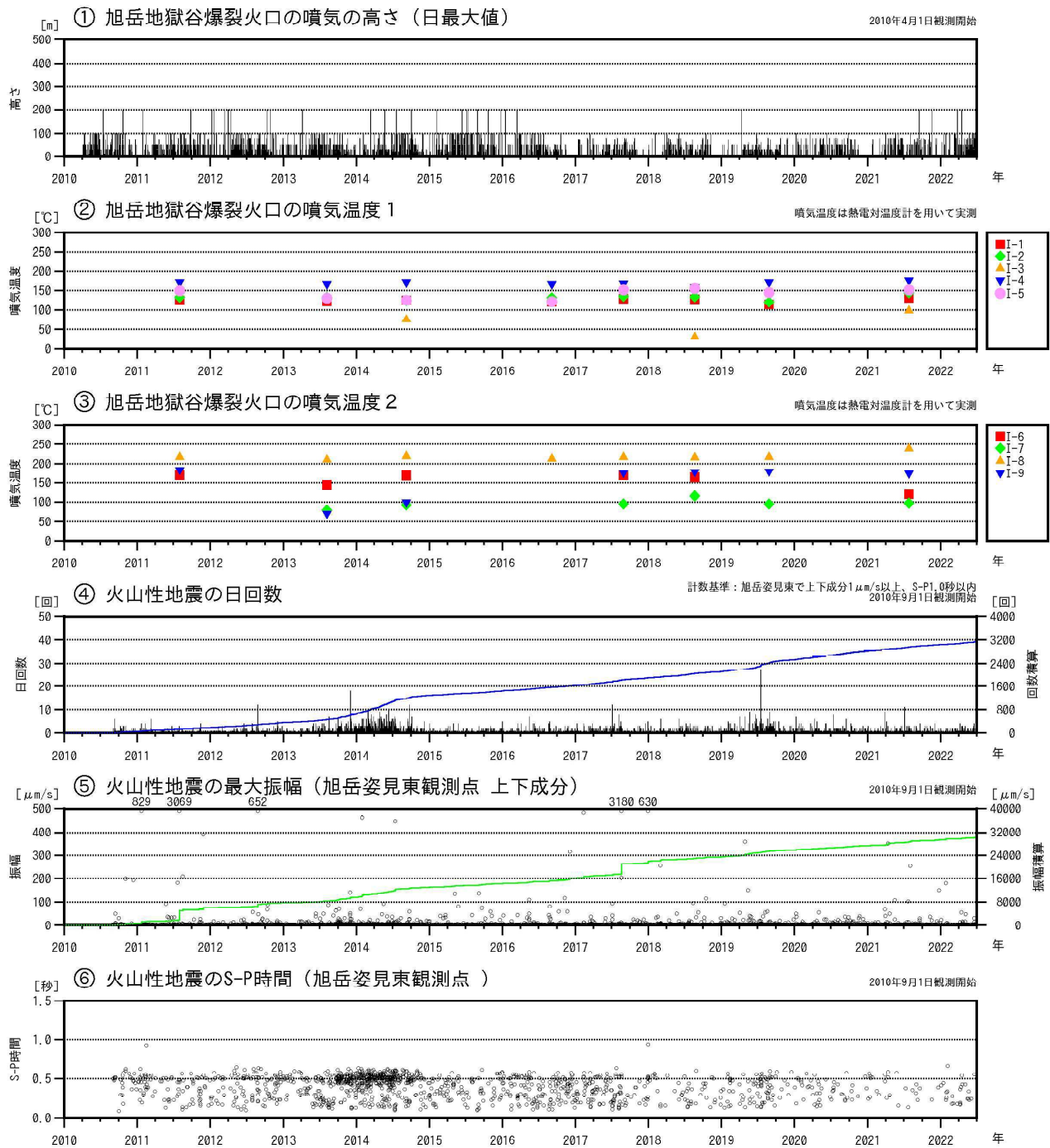


図2 大雪山 地獄谷爆裂火口の状況と活動経過図（2010年4月～2022年6月30日）
②及び③は図3に示した各噴気孔群の最高温度をプロットしています。

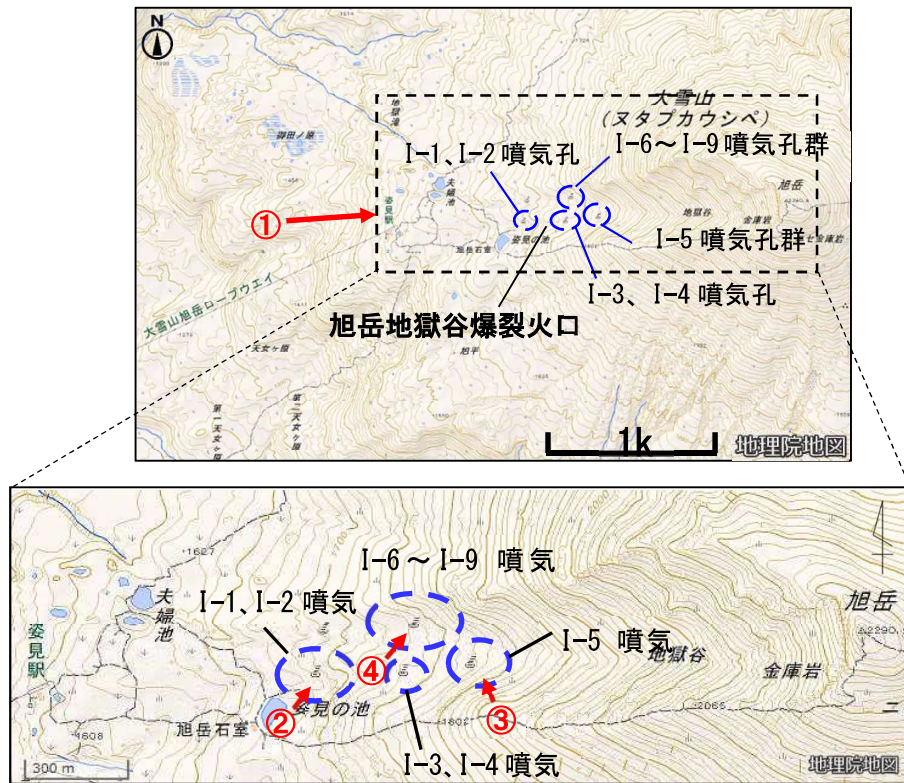


図3 大雪山 周辺図と図2-②③の温度測定位置及び図4～8の写真及び赤外熱映像の撮影位置、撮影方向（矢印）

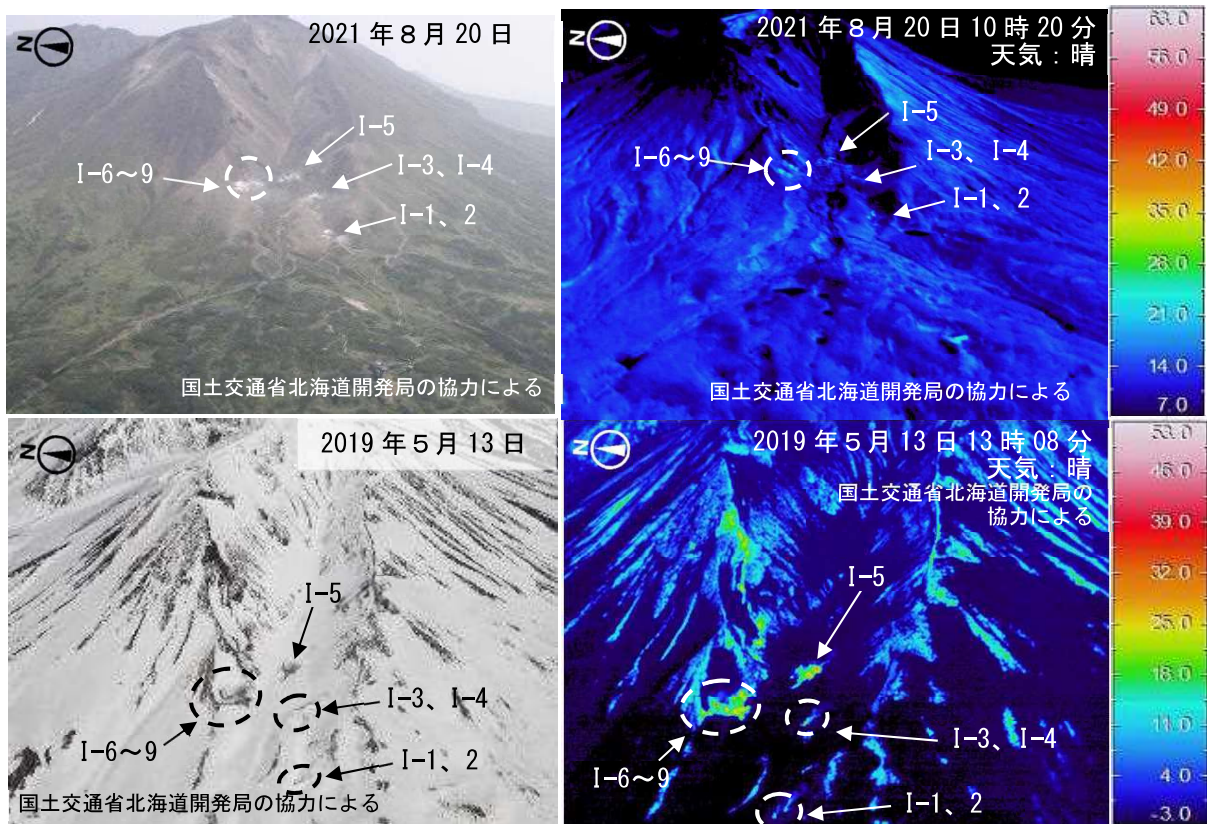


図4 大雪山 赤外熱映像観測装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布

西側上空（図3の①）から撮影

- ・前回（2019年5月）の観測と比べて、噴気の勢いに特段の変化はみられず、地表面温度分布も、積雪の影響で見え方に違いがありますが、特段の変化は認められませんでした。